

(様式1)

県立高校改革（I期）指定事業 3年間計画申請書

学校名	湘南台高等学校（全）	校長名	相原 一孝
指定事業	教育課程研究開発校 新科目「公共」		
研究主題	シチズンシップ教育を理念とした新科目「公共」の研究開発 ～「18歳の段階で身に付けておくべき力は何か」という観点から「社会に開かれた教育課程」を構想するには～		
3年間の目標 （3年後のめざすべき姿）	シチズンシップ教育研究指定校としての成果と取り組みを踏まえ、「社会に開かれた教育課程」を構想し、公民科をはじめ、各教科・科目において生徒が自ら課題を発見し解決する力を育み、主体的に学ぶ意欲を高めることをめざした授業改善がなされ、これからの時代に求められる資質・能力の育成と社会に積極的に参画する意識の醸成に向けた教育活動を充実させる。		
3年間の 研究内容	<p>(1) 研究主題の設定理由とこれまでの取組</p> <p>湘南台高校は平成22～24年度県立高校教育力向上推進事業において「シチズンシップ教育」の教育活動開発校の指定を受け、政治参加教育と司法参加教育を中心に研究を進めてきた。政治参加教育では「模擬投票」や「湘南台ハイスクール議会（模擬議会）」、司法参加教育では「横浜弁護士会との連携による模擬裁判」や「高大連携による模擬裁判」等のシチズンシップ教育の核となる学習プログラムを開発し、総合的な学習の時間や公民科の中で実践することで、生徒の社会参加に対する能力や態度を育成することができた。また、平成25～27年度県立高校教育力向上推進事業 Ver. IIにおいて「シチズンシップ教育」の研究推進校の指定を受け、学校の教育活動全体で取り組む“理念”である「広義のシチズンシップ教育」について研究を進めてきた。「総合的な学習の時間」の校内名称を「シチズンシップ」と定め教育課程上の中心に位置づけ、各教科・科目とシチズンシップ（総合的な学習の時間）とを「習得・活用・探究」という一連の学びのプロセスの中でつなぎ合わせ、学校全体でシチズンシップ教育を推進させることができた。</p> <p>今回の県立高校改革（I期）指定事業においては、新科目「公共」に係る教育課程研究開発校として、これまで取り組んできた「広義のシチズンシップ教育」という学校教育の理念をより具体化させるために、「18歳の段階で身に付けておくべき力は何か」という観点から「社会に開かれた教育課程」を構想し、公民科をはじめとする各教科・科目及び総合的な学習の時間において育成すべき資質・能力を整理し、それらを育成するために「何を学ぶのか」という必要な指導内容を検討し、その内容を「どのように学ぶのか」という生徒の具体的な学びの姿を検討する。</p> <p>(2) 研究の内容</p> <p>○これまでのシチズンシップ教育の取組を踏まえつつ、「18歳の段階で身に付けておくべき力は何か」という観点から、新科目「公共」を含めた「社会に開かれた教育課程」像を構想する。</p> <p>○公民科科目において、新科目「公共」の在り方（育成すべき資質・能力、指導内容、生徒の学びの姿）を本校独自の視点から検討していく。</p> <p>○公民科をはじめとする各教科・科目において、シチズンシップ教育を理念としたアクティブ・ラーニング（例えば、討論やディベートなど）の推進を図り、新科目「公共」につながる生徒の学びの姿を検討する。</p> <p>○「シチズンシップ（総合的な学習の時間）」において、より一層の充実化・体系化を図るとともに、新科目「公共」につながる生徒の学びの姿を検討する。</p> <p>○新科目「公共」はキャリア教育の中核となる時間とされることから、従来取り組んできたキャリア教育の取組との連携の方策を検討する。</p> <p>○外部関係機関との連携の在り方を検討する。</p> <p>○地域の県立高校との情報交換を行い、成果を普及する。</p> <p>(3) 成果の検証方法及び成果指標</p> <p>○シチズンシップ教育を含む新科目「公共」の評価規準の作成を行う。</p> <p>○シチズンシップ教育を含む新科目「公共」の評価規準を踏まえ、在校生や卒業生へのアンケートや教職員へのアンケートを通して教育効果の検証を行う。</p>		
各年度の 実施計画	<p>(1) 平成28年度</p> <p>○目標</p> <p>次期学習指導要領改訂に向けた中央教育審議会の議論に注目し、新科目「公共」をはじめとする高校教育改革の動向に関する情報収集を行い、職員間の共有と研修を行う。</p> <p>○手立て</p>		

<p>各年度の実施計画</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・参議院議員通常選挙が行われる年であることから、全校生徒を対象とした模擬投票を実施する。 ・これまでのシチズンシップ教育の取組を踏まえつつ、「18歳の段階で身に付けておくべき力は何か」という観点から、「社会に開かれた教育課程」像を構想する。 ・公民科科目において、新科目「公共」の在り方（育成すべき資質・能力、指導内容、生徒の学びの姿）を本校独自の視点から検討していく。 ・公民科をはじめとする各教科・科目において、シチズンシップ教育を理念としたアクティブ・ラーニング（例えば、討論やディベートなど）の推進を図り、生徒の学びの姿を検討する。 ・「シチズンシップ（総合的な学習の時間）」において、より一層の充実化・体系化を図るとともに、生徒の学びの姿を検討する。 ・新科目「公共」はキャリア教育の中核となる時間とされることから、従来取り組んできたキャリア教育の取組との連携の方策を検討する。 ・地域の県立高校との情報交換を行い、シチズンシップ教育の成果を普及する。
	<p>(2) 平成 29 年度</p> <p>○目標 前年度の情報収集を踏まえ、新科目「公共」に係る教育活動の実践を行う。</p> <p>○手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでのシチズンシップ教育の取組を踏まえつつ、「18歳の段階で身に付けておくべき力は何か」という観点から、新科目「公共」を含めた「社会に開かれた教育課程」像を構想する。 ・公民科科目において、新科目「公共」の在り方（育成すべき資質・能力、指導内容、生徒の学びの姿）を本校独自の視点から検討していく。 ・公民科をはじめとする各教科・科目において、シチズンシップ教育を理念としたアクティブ・ラーニング（例えば、討論やディベートなど）の推進を図り、新科目「公共」につながる生徒の学びの姿を検討する。 ・「シチズンシップ（総合的な学習の時間）」において、より一層の充実化・体系化を図るとともに、新科目「公共」につながる生徒の学びの姿を検討する。 ・新科目「公共」はキャリア教育の中核となる時間とされることから、従来取り組んできたキャリア教育の取組との連携の方策を検討する。 ・外部関係機関との連携の在り方を検討する。 ・地域の県立高校との情報交換を行い、シチズンシップ教育と新科目「公共」の成果を普及する。
	<p>(3) 平成 30 年度</p> <p>○目標 新科目「公共」に係る教育活動の確立と普及を行う。</p> <p>○手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでのシチズンシップ教育の取組を踏まえつつ、「18歳の段階で身に付けておくべき力は何か」という観点から、新科目「公共」を含めた「社会に開かれた教育課程」像を提案する。 ・公民科科目において、新科目「公共」の在り方（育成すべき資質・能力、指導内容、生徒の学びの姿）を本校独自の視点から提案する。 ・公民科をはじめとする各教科・科目において、シチズンシップ教育を理念としたアクティブ・ラーニング（例えば、討論やディベートなど）の推進を図り、新科目「公共」につながる生徒の学びの姿を提案する。 ・「シチズンシップ（総合的な学習の時間）」において、より一層の充実化・体系化を図るとともに、新科目「公共」につながる生徒の学びの姿を提案する。 ・新科目「公共」はキャリア教育の中核となる時間とされることから、従来取り組んできたキャリア教育の取組との連携の方策を提案する。 ・外部関係機関との連携の在り方を提案する。 ・地域の県立高校との情報交換を行い、新科目「公共」の成果を研究報告書にて普及する。
<p>研究体制</p>	<p>推進主体として「新科目「公共」に係る研究推進会議」を置き、広報・研究グループがこれを主管する。</p>
<p>その他 特記事項</p>	<p>特になし</p>

